

金属アレルギーについて

☆日本においては、ほとんど全ての歯科治療を保険で受けることができます。

しかし、保険診療では治療に用いることができる歯科素材に制限があり、

虫歯治療においてはほとんどのケースで金属が用いられます。

保険で使用が認められている**金銀パラジウム合金**でさえ、リスクは高い

との認識は必要かもしれません。

実際、海外では、金属を使つての歯の治療は主流ではないのです。

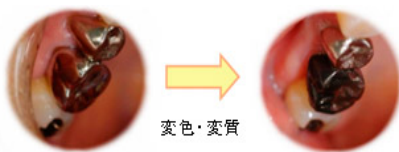
歯に詰めたり被せたりした金属は、時間が経つとお口の中でさび、

金属イオンが溶け出します。体内に入った**金属イオン**に対して免疫反応が起こると、

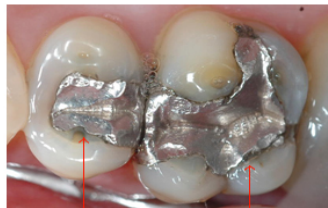
アレルギー症状が現れます。

歯科素材によるアレルギーは、必ずしもお口の中に症状が出るとは限らないため、

患者様ご自身がアレルギーに気づかれていないこともあります。



変色・変質



アマルガムが腐食しています



アマルガムが粘膜に沈着しています（タトゥー）

- ・金属が溶け出したところから2次カリエス(虫歯)になりやすくなる
- ・金属アレルギーのリスクが高まる
- ・粘膜に金属が沈着する(タトゥー様)
- ・肝臓・腎臓等、内臓に有害な重金属が蓄積する
- ・原因不明の疲れ、頭痛、肩こり、原因不明の痛み、不眠、イライラ、めまい、不眠、電磁場過敏症といった不定愁訴のリスクが高まるなどの原因となり、無自覚のまま有害な重金属が蓄積していくので、身体に非常によくありません。



ごきげんデンタルクリニック

